

熊本城マラソンin山尻の風景

河陽新聞

10000人のランナーが町中を走り抜け、多くのボランティアが応援しました。



2月19日の日曜日に熊本城マラソンが実施され「川尻と伝統の町」川尻を約1万人のフルマラソンランナーが走り抜けた。今回、初めての熊本城マラソンは、川尻の町並みや伝統文化を味わえるコース設定が施され、参加者は勿論、テレビ新聞を通じて、おもてなし心と沿道で応援する姿は、高い評価を受けたマラソン大会になったようです。

川尻校区体協を中心に支援

熊本城マラソンの実施に当たっては、川尻校区自治協議会を中心に進行が進められ、給水を中心とする地元ボランティアは、川尻校区体育協会・高浜亭会長を執行委員長に校区の各組織に呼び掛けられ180名での給水支援（紙コップ2万3千）など、全員が未経験ではあるものの、給水と共に愛情のこもった掛け声で無事に役を終えました。

多くの人々は東京マラソンの参加者3万人などテレビでは眺めていたものの、実際に1万人を対応する事は、想像以上の人の数であることを体験された様子でした。
1万人参加の内容は、4kmコースが850名、30kmが150名、42.195kmのフルマラソンが9000名内訳として、男性81%女性19%、年齢は18歳〜最高齢93歳まで、ゴールまで完走された完走率93%、川尻校区からも15名がエントリーしていますので、今回は特別枠で記載します。



新聞づくりのスタッフを探しています。
川尻校区では年間を通して、色々な組織が色々な取り組みをなされています。また、加勢川お蔵の前船着き場をはじめ伝統と文化を有しています。今ではインターネットをはじめ多くの情報伝達方法がありますが、この機関誌は校区の全世帯と関係する人々に配られ、毎回4000部作られています。郷土の活動、歴史文化のこと、広報・伝達にご興味のある方、機関紙づくりスタッフを募集しています。お気軽に声をかけて下さい。



熊本市南部地区市民の会 発行責任者 村田幸博

ユニークな応援隊の様子を紹介

川尻に設けられた給水所は肥後銀行前100m、スターとから16.5k



川尻に設けられた給水所は肥後銀行前100m、スターとから16.5k地点で、水・スポーツドリンク、それにバナナ等が補給されました。でも、疲れて走るランナーを蘇らせるのに一番の効果は沿道からの応援で、止まる訳にはいかな



い励ましになった様です。くまもと工芸会館前ではお揃いの赤のハッピーひよっとこ面をかぶり音楽に乗せての応援隊があり「かわしり・ひよっとこ愛笑会」の旗をかがけ、



通過するランナーに笑いの栄養ドリンクを提供されていきました。尋ねたところ会員20名、9町内の吉村孝則さんをリーダーに校区に笑いを提供する集まりであることを強調されています。

声で「塩の欲しい方はいませんか？」と声をかけていました。それが、テレビの実況中継の中でランナーとして参加していたタレントさんが「川尻はよか！川尻の塩はうまか」と、感動しながら伝えていました。川尻は、ただの給水所ではなく心の補給も支援出来たようです。

熊本城マラソン川尻校区の写真紹介綴り



白パイを先導にトップランナーが走る



もうすぐランナーが来るよ！



一万人のランナーはすごい数でした。



100mにおよぶ給水ボランティア

地元のランナーたち



12町内 榊島選手



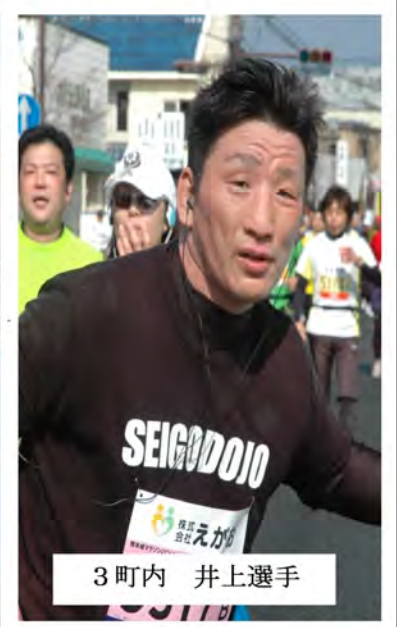
5町内 吉村選手



7町内 益本選手



7町内 渡辺選手



3町内 井上選手



写真撮りで励ます中川消防団員



酒樽をたたいてのズイヨウ応援隊



川尻四つ角界限 応援団



7町内 横断幕と子供太鼓での応援団



お蔵の前・船着き場に張られた横断幕



川尻公会堂前 太鼓で応援する友清(元自治会長)